

① 学習指導案（修正版）

プログラム	モデルプログラム No. 11 「地域景観プランナーになろう」
単元名 (全60時間)	「ビョウスタグラム」 ～まちの魅力再発見プロジェクト～
学習のねらい	・場所によって地域・自然・景観のよさが異なることに気づく ・まちのよさについて、人によって捉え方に違いがあることを知る ・情報収集能力を身に付け、情報を効果的に伝えていく方法を工夫する ・まちのよさを活かしていくために必要なことを話し合う
学習内容	・屏風浦や杉田のまちの地理的な特徴、どこにこういった種類の建物があるか、道路や鉄道網のこと、まち並みなどの様子などを調べ、まちの特色を考える ・区役所、店舗や施設が発行しているパンフレットや WEB ページを見て、まちの人々が発信しようとしていることを知り、広報活動に係ろうとする ・店舗や施設の方に取材をしたり、それらの様子を写真に撮ったりして、必要な情報を集める ・取材した内容をまとめ、パンフレットを作成する。取材先に置いてもらったり、学校WEBページ等に掲載したりする
参考資料 準備品 実施場所等	(参考資料) ・区役所発行のパンフレット ・本校60周年記念誌 ・その他、各店舗、施設の WEB ページ等 (準備品) ・タブレット PC ・ノート PC ・デジタルカメラ (実施予定等) ・屏風浦駅周辺 ・杉田駅及び新杉駅周辺 ・磯子駅周辺 ・その他、市内及び県内の有名観光地（上大岡、みなとみらい 等）

まちの魅力再発見プロジェクト

1. 学習のねらい

- ・場所によって地域・自然・景観のよさが異なることに気づく。
- ・自分のまちのよさについて、人によって考え方や見方に違いがあることを知る。
- ・情報収集能力を身につけ、情報を効果的に伝えていく方法を工夫する。
- ・まちのよさを活かしていくために必要なことを話し合う。

2. 学習活動

- ・屏風浦や杉田のまちの地理的な特徴、どこにどういった種類の建物があるか、道路や鉄道網のこと、まち並みなどの様子などを調べ、まちの特色を考える。
- ・区役所、店舗や施設が発刊しているパンフレットやWEBページを見て、まちの人々が発信しようとしていることを知り、広報活動に係ろうとする。
- ・店舗や施設の方に取材をしたり、それらの様子を写真に撮ったりして、必要な情報を集める。
- ・取材した内容をまとめ、パンフレットを作成する。取材先に置いてもらったり、学校WEBページ等に掲載したりする。
- ・学習の流れは、別表（次ページ）単元構想図を参照。

3. 指導のポイント

- ・国語科の「調べたことを発信しよう」においては、パンフレット作成のための情報収集という形で、自分たちの住むまちのよさや特徴について話し合う。その中から、まちのおすすめポイント（店舗や施設、自然等）をいくつかしぼり、それらをいろいろな方法で発信していこうとする学習課題をもつことができるようにする。
- ・取材、編集活動は、7月以降、年間を通して以下の流れで行っていく。
 - ①掲載したい施設・店舗・景観について話し合い、掲載先を決定する。
 - ②掲載先を取材したり、写真を撮ったりする。
 - ③パンフレットやWEBページを作成し、掲載先の方や専門家とともに推敲する。
 - ④パンフレットの発刊、ページの公開を行う。以上①～④の流れを、1～2か月のスパンで繰り返し行っていく。決まった流れをPDCAサイクルで行っていくことにより、活動を経ることでよりよい成果物を完成させられるようにしていく。
- ・取材、体験活動を通して、自分の地域にはなくて、その場所にはあるもの（またはその逆）、おもしろい、つまらない、興味深いと感じたこととその理由を十分に話し合うようにする。また、自分たちが感じている魅力を、まちの人々は実際にどう感じているのか、それらまちの人々の話を聞いてどのように感じたか、などを考える視点を与えるようにすることで、様々な人々の思いを想像できるようにする。
- ・本活動を行っていく中で、パンフレットやWEBページだけでなく、実際に何かイベントを行うことはできないかという発想が出せるところまでめざしたい。その際には、対象者（学校の同学年・下学年、一般の観光客、地元の人々等）、対象のニーズ（興味をもってくれそうなものはなにか、その場所の魅力を満喫できる活動は何か等）、地域への貢献（その場所の問題解決のためになにか支援できることはないか）など、企画における具体的にポイントを考えられるようにする。

まちの魅力再発見プロジェクト (国語 12 時間、総合 60 時間)

まちの魅力を伝える方法について考えよう (6 月 総合 4 時間)

自分たちのまちを知る。

- ・魅力を伝える前に、自分たちのまちのよさを知るところから始めたいな。
- ・取材をしてプロジェクトの材料を集めなきゃね。



魅力を伝える方法を考えよう。

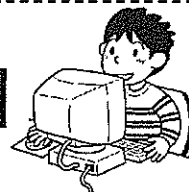
- ・調べたことをパンフレットにまとめて、まちの人に伝えたい。
- ・イベントを開こうよ。
- ・ホームページで発信してみるのはどうだろう？

まちについて調べたことを発信しよう (6 月 国語 12 時間)

まちのパンフレットを集めて研究しよう。

- ・パンフレットってどのくらいの種類があるのかな。
- ・どんな記事が書かれているのだろう。
- ・だれがどのようにして発行しているのだろう。
- ・特集記事や連載になっている記事があるね。

記事を活字で発行したいから、タイピングを練習しよう。



記事の内容を決めよう。

- ・季刊にして発行したい。
- ・どの年代の人に読んでもらうことを想定するか。
- ・読みたいと思う記事って何だろう。

編集チームを組もう

- ・お店や施設の紹介
- ・季節ごとの公園紹介
- ・まちに伝わる伝説

取材・編集 (7 月～12 月 総合 40 時間)

屏風浦駅前 杉田・新杉田地区 磯子駅周辺

地域の商店や公共施設 (アングーテ、サンドリエ磯子、杉田地区センター 等)

学校ホームページで公開

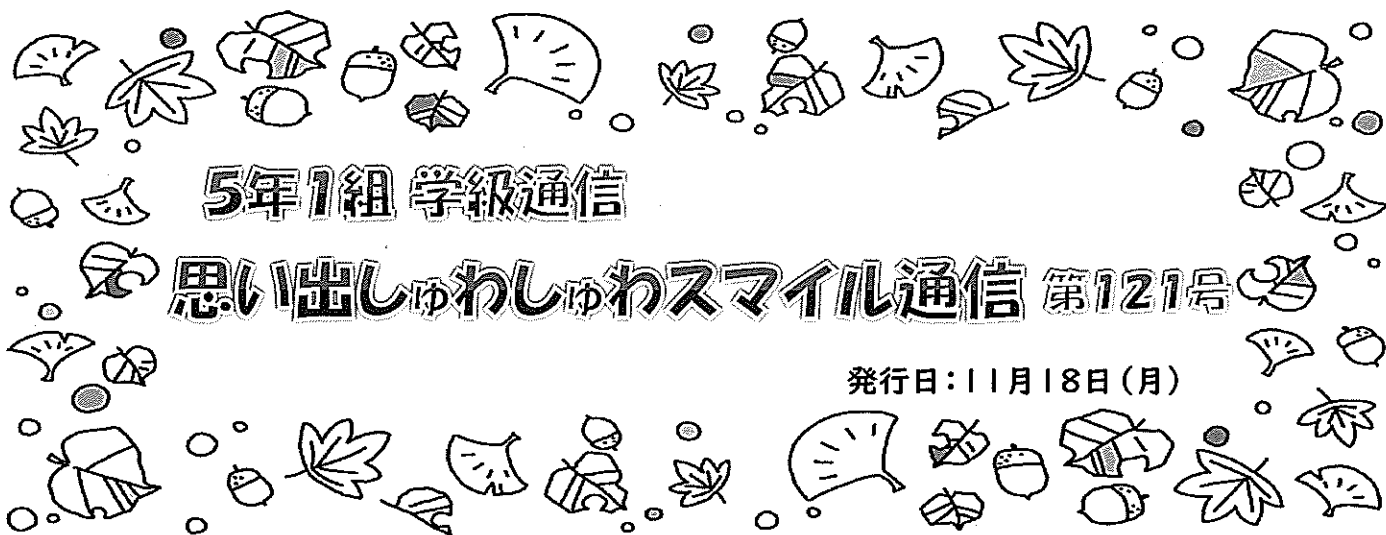
- ・情報モラルや個人情報
- ・お店や施設の WEB ページとのリンク

パンフレットを作ろう

- ・もっといい記事を書こう。
- ・編集チームの改善
- ・地図にコメントをもらおう

取材範囲をさらに広げよう・イベントを開こう (1 月～ 総合 16 時間)

- ・上大岡やみなとみらいなど、ターミナル駅や観光地も取材してみたい
- ・屏風浦つながるステーション B を活用してイベントを開き、魅力を伝えたい。
- ・お店巡りやまちの伝説を特集して、ウォーキングツアーを企画したいな。
- ・お店や施設とコラボして、オリジナルのグッズをつくってみてはどうか。
- ・観光局に問題提起し、景観の改善にチャレンジしてみよう。

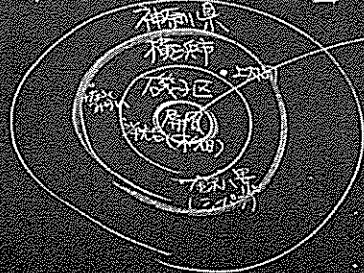


クラス総合「景観まちづくり学習」進捗状況報告

5-1の総合

テーマ「わたしたちのまち」

お気に入りの場所/店などを探しよう



屏風浦学校

中原階段の見える景色
柑の木 (新階段)
電車の軌道
5年生の木
紅葉 自然の美しさ
秋の

昇降口前の景色
工場側の景色
日時計
樹木園のアーチ
(赤い中門のアーチ)
花・植物

3階の外さか
スライディング
だるま池
おもしろい石
甘神像

屏風(杉田)のまち

タニハウス
(屏風の駅)
つばき園
サトウエース3店
(森の近く)
アングレ(4階上)

磯子区内・横浜市内のまちづくりに特色のあるところ

10/28(月) 34校時

取材①

アングレ
サトウエース
光栄堂

11月10(月)

取材②

(屏風浦地区)

11月19(日)

取材③

(杉田方面)

12月10(月)

取材④

(杉田方面)

1月~2月

おひらき
ハルマ

今やること

- ① 店の場所/名前/時間
10:40~12:00 学校到着
- ② インターネット/写真(金の日)
写真(金の日)
(中・外)

運動会が終わり、秋も深まってきました。最近では少し肌寒さを感じるようになってきましたが、「芸術の秋」「読書の秋」と言われるように、何をするにも、取り組みやすい時期になりました。クラス総合も、先月から本格的にスタートしています。

5年1組では、「(屏風や杉田の)まち」をテーマに、景観やまちづくりに注目した学習を進めています。「景観」とは「眺め渡す景色やその様子」、「まちづくり」は言葉のとおり、「まちをどのように改善し、魅力的なものにしていくか」といった意味があります。この二つを組み合わせた言葉が「景観まちづくり」であり、「まちの景色や様子に注目しながら、自分たちのまちをどのようによりよくしていくか」、また「どのような人がまちづくりに関わっていて、その人たちはどのような思いや願いをもっているのか」こういったことを現地調査や取材を通して明らかにしていく、そういった学習が、5年1組が進めている景観まちづくり学習です。

2枚目の黒板の写真にもある通り、すでに1回目の店舗取材は終わっていますが、今後、2回目、3回目と屏風浦・杉田地区の店や公共施設を中心に、学習を進めていく予定です。また、もっと活動の幅が広がれば、屏風浦や杉田だけでなく、磯子区内や横浜市内のまちづくりに特色がある地域にも出かけるかもしれません。活動がどのように進んでいくかは、みなさんの取組にかかっているということです。様々なまちの人に出会い、その人たちが考えているまちに対する思いや願いにふれ、まちに住む一員として自分たちにはどんなことができるのかを考える、この学習の意味をよりよくとらえ、自分たちのオリジナルの学習にしていってほしいと願っています。



5年1組 学級通信

思い出しゅわしゅわスマイル通信 第122号

発行日: 11月19日(火)



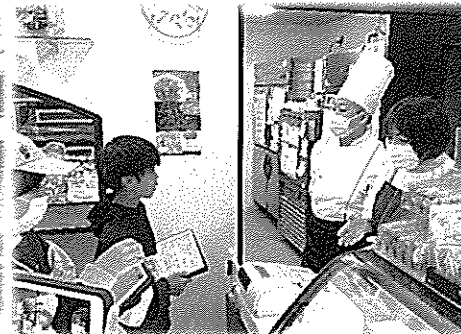
クラス総合 第1回取材活動報告



前号に引き続き、クラス総合のお話です。10月28日に、第1回目の店舗取材に行きました。今回は、食品を取り扱うお店を中心に取材しました。このグループは、白旗商店街の中にある和菓子屋「御菓子司 光永堂」を取材しました。磯子の逸品にも選ばれている大福を中心に、団子や茶饅頭などいろいろな和菓子を作っているところを取材し、お話も聞かせてもらいました。屏風のまちで60年以上の長きにわたり愛されている、まさに「まちの和菓子屋さん」という言葉がピッタリのお店でした。



続いてこちらのお店は、磯子工業高校や森中学校の近くにあるサンドイッチ屋さん「サンドリエ 磯子店」です。みなさんの先輩である森中生にも人気のお店で、お昼ご飯のためにたくさんの注文を受けているそうです。取材をしてみたところ、一日に種類だけで30個ほど売れることもあるそうです。大人気のお店ですね。それもそのはず、パンはフワフワ、具材はボリューム満点で、しかも価格がとても良心的でお安い。言うことなしですね。これからも、屏風のまちで長く愛されていくすてきなお店に出会いました。



次のお店は、森町公園のお隣にあるケーキ屋「パティスリー アン・グーテ」です。このお店のケーキや焼き菓子は、屏風浦小学校の先生やまちの人たちで行われる会議などでもたびたび提供されており、屏風のまちの人たちにとても親しまれています。先ほどの光永堂の大福と同じように、看板商品の「グーテシュー」は、磯子の逸品に選ばれており、長く愛されています。どんな思いでケーキづくりをしているのかたずねたところ、「みんなに美味しいと思ってもらえるように気持ちを込めている」とのことでした。オーナーさんのあたたかい気持ちが感じられる、すてきなまちのケーキ屋さんでした。

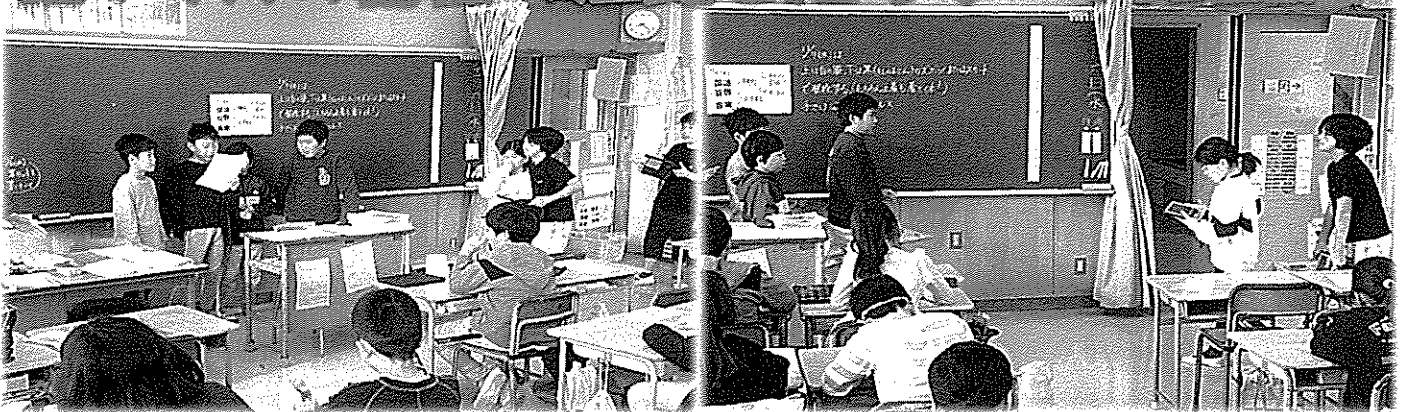


5年1組 学級通信

思い出しゅわしゅわスマイル通信 第127号

発行日：11月26日(火)

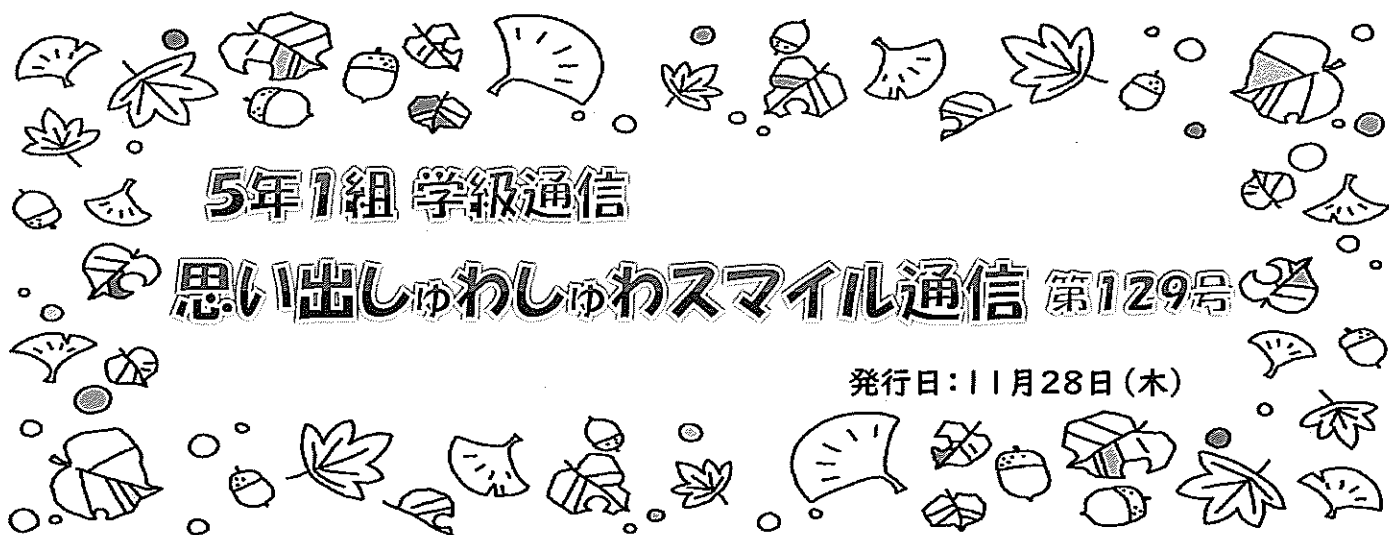
他クラスの総合の活動を知ろう ～4年2組編～



4年2組の総合は、屏風浦駅前にあるトレーラーハウス「屏風浦つながるステーションB」について調べているそうです。5年1組でも、いろいろなまちのお店や施設について調べていて、屏風浦駅前も取材する計画だったので、4年2組さんにいろいろと聞いてみました。このトレーラーハウスでは、まちの人々のつながりを創り出すために、カフェを開いたり、ハロウィンイベントを行ったりしてきたそうです。これからも定期的にイベントがあるということなので、みなさんもチェックしてみてくださいはどうか。

取材当日には、トレーラーハウスにポスターを掲示している若林先生にも会いました。(若林先生は、トレーラーハウスの活動のサポートをされているそうです。)





5年1組 学級通信

思い出しゅわしゅわスマイル通信 第129号

発行日：11月28日(木)

クラス総合 第2回取材活動報告①



屏風浦地区2回目の取材の様子です。今回は、全部で5か所(屏風浦地域ケアプラザ、アサノデンキ、トリプルエフ、ホンダカーズ横浜磯子、屏風浦駅前トレーラーハウス)に行ってきました。

この写真は、地域ケアプラザグループの活動の様子です。地域ケアプラザは、学校や図書館、区役所などと同じ公共の施設です。商品を買ったり紹介したりすることが目的ではなく、まちの人たちの役に立つこと、まちの人たちを支えること(福祉・保健)などを目的としています。ケアプラザには、会議やサロン、小さな子どもの遊び場として使える多目的ホール。困っていることを相談できる相談スペース。施設内で活動している人たちに食事を提供する調理室など、いろいろな場所があることを知りました。

この他にも、ケアプラザの人たちは、学校と協力して、福祉に関する出前授業なども行っています。みなさんが今すぐに利用することはないかもしれませんが、将来お母さんやお父さんになったとき、また何か相談したいことができたとき、力を貸してもらえ場所になるかもしれませんね。



続いてこちらの写真は、まちの電気屋さん「アサノデンキ」です。アサノデンキは、前回取材をした「光永堂」のすぐお隣にあるお店です。電気屋さんですから、もちろん電化製品の販売を行っていますが、この他にも、電化製品の修理や取り付けなどもしているそうです。緊急の時も対応してくれる、まちの人たちにとって心強いお店です。さらに、店長さんは、登下校のときなどに、子どもたちの安全の見守りもしてくれているそうです。まさに、屏風のまちのスーパーヒーローですね。みなさんも、まちの中でお会いしたときは、元気なあいさつや感謝の気持ちを伝えられるとよいですね。



5年1組 学級通信

思い出しゅわしゅわスマイル通信 第130号

発行日: 11月29日(金)

クラス総合 第2回取材活動報告②



前回に続き、屏風浦地区の取材の様子をお届けします。この写真のお店は、屏風浦交差点にある美容院「トリプルエフ」です。屏風のまちで100年以上続いているかなり有名なお店ということで、みなさんのお家の人の中にも、行ったことがある人がいるかもしれませんね。(ちなみに、私の妻も行ったことがあるそうです。)

このトリプルエフさんは、美容院としても有名なのですが、オーナーの中島さんをはじめ、お店のスタッフさんがまちづくりやまちの歴史を伝える活動に力を入れているそうです。同じ日に取材した屏風浦駅前のトレーラーハウスの活動にも関わっていたり、美術大学と協力してまちのパズルを作ったりもしているそうです。(なんと今回、そんな貴重なパズルをいただきました。ありがとうございます!!) トリプルエフさんの活動は、まさに5年1組がテーマとしている「まちづくり」とピッタリな内容ですね。「まちの歴史について知りたいことがあれば、いつでも話を聞きにきてください」と言ってくれているので、また機会があれば、お店を訪ねてみるのもよいですね。



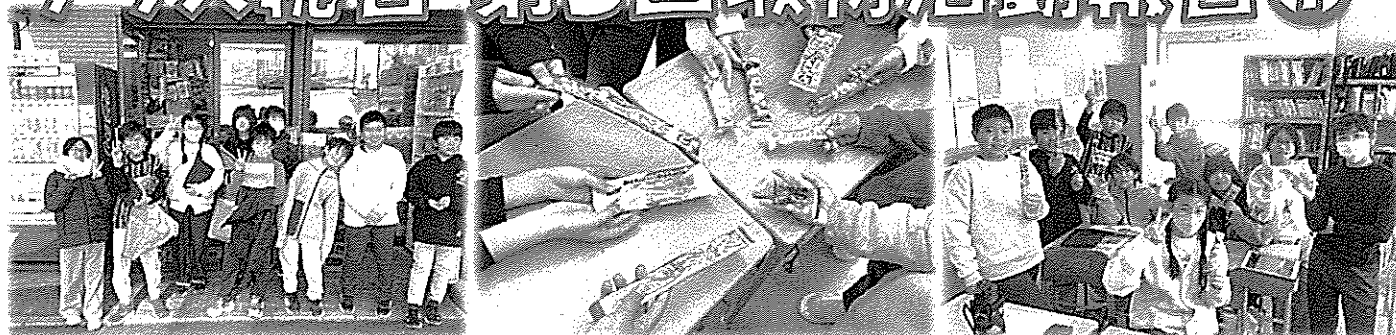
今回の取材、最後のお店は、16号線沿いにある「ホンダカーズ横浜磯子店」です。前日に急遽取材をお願いしたにもかかわらず、快く引き受けてくれたお店です。感謝です。ホンダカーズ横浜磯子さんは、日本中にたくさんあるホンダ販売店のうちのひとつで、横浜南部地区を中心に、車の販売や修理などを行っているお店です。5年生のみなさんは、社会科で工業生産(自動車など)の学習をしています。車づくりの工程、新しい機能を生み出す生産者の工夫や努力など、いろいろなことを学習してきましたが、実際に車を販売する店を見る機会はなかなかないと思います。車の運搬専用のエレベーターに乗せてもらったり、修理や点検をしている場所を見学したりと、とても貴重な体験ができました。このホンダカーズ横浜磯子さんが、横浜南部地区のホンダの車に乗っている人、これから乗りたいと思っている人たちを支えているお店だとわかりました。

5年1組 学級通信

思い出しゅわしゅわスマイル通信 第137号

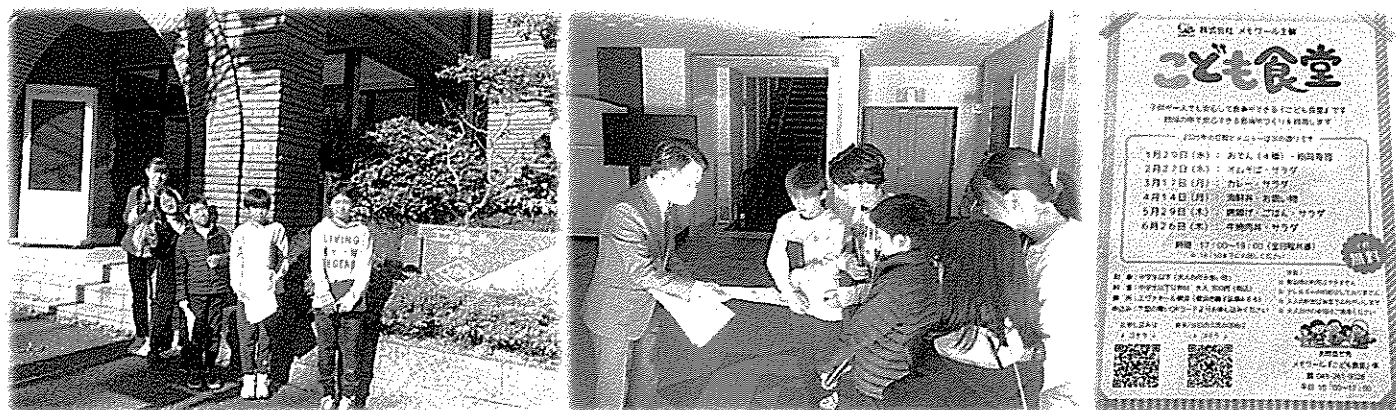
発行日：12月10日（火）

クラス総合 第3回取材活動報告①



屏風浦地区3回目の取材の様子です。今回は、全部で4か所（佐々木酒店、エヴァホール横浜、マロン、屏風浦駅前トレーラーハウス）に行ってきました。

この写真は、佐々木酒店グループの活動の様子です。佐々木酒店は、森門から歩いて約10分のところにある、まちの酒屋さんです。酒屋といっても、お菓子や清涼飲料水、その他の食料品なども売っていて、小学生のみなさんは遠足のお菓子を買うときなどに利用しています。常時、50種類近くのお菓子をおいているそうで、しかも一つ一つの値段がとても安いので、ついついまとめ買いしてしまいたくなりますね。このお店の歴史は古く、55年前の昭和の時代からこの場所でお店を開いているそうです。森5・6丁目は細い路地が多く、コンビニやスーパーまで行けないときに、このくらいの距離に酒屋（商店）さんがいると、まちの人は助かりますね。みなさんから大変重宝されている佐々木酒店でした。



続いてこちらの写真は、屏風浦駅から少し坂を上ったところにある「エヴァホール横浜」です。エヴァホールの名前だけを聞いて、どんな施設なのかすぐにわかる人は、おそらくあまりいないと思います。このエヴァホールは、葬斎式場として屏風のまちで25年以上、地域の人々のニーズに応えている施設です。最近では、地域貢献の意味合いから、こども食堂（一番右のチラシ）も始めたそうです。「地域の中で安心できる居場所づくりを目指します」と書かれている通り、利用者に寄り添う気持ち、相手を敬う気持ちを大切に、様々なお仕事をされているそうです。このエヴァホールのように、街中には、みなさんが直接利用することはないけれども、とても大切な意味合いをもった場所がたくさん存在します。いろいろなお店や施設に興味をもつことは、まちづくりという観点から、とても大切なことだと言えます。

5年1組 学級通信

思い出しゅわしゅわスマイル通信 第138号

発行日：12月11日(水)

クラス総合 第3回取材活動報告②



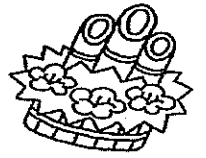
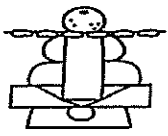
前回に続き、屏風浦地区の取材の様子をお届けします。この写真のお店は、屏風浦駅前の横断歩道を渡ってほんの少し坂を上ったところにあるケーキ屋さん「マロン」です。前号で紹介したエヴァホール横浜の隣の隣の建物です。

このマロンも、創業40年と大変歴史があり、以前に磯子のまちを紹介するテレビ番組「アド街ック天国」で取り上げられたこともある有名店です。インタビューでは、「平日は70個、土日で100個近くのケーキが売れている」「朝早くからみんなに美味しいと思ってもらえるケーキ作りを頑張っている」と答えてくれました。店の名前の由来なども教えてもらいました。以前、光永堂やアングーテのときにも紹介しましたが、磯子区役所が中心となりまとめたまちのパフレット「磯子の逸品」に、マロンの「マロンシャンテリー」が選ばれていることもわかりました。屏風のまちの人だけでなく、磯子区全体から愛されているお店でした。



今回の取材、最後の場所は、前回も取材に訪れた屏風浦駅前のトレーラーハウス「屏風浦つながるステーションB」です。前は中を見ることができませんでしたが、今回は運営をされている京急の方に来ていただき、中を案内してもらいました。

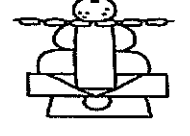
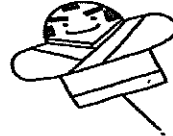
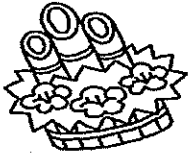
このトレーラーハウスは、地域の交流拠点として使いたいという地域の方の声をきっかけに、約40人くらいの実行委員が集まり、オープンしたそうです。(トリプルエフのオーナー中島さんや若林先生もこのメンバーの一人です。) これまでカフェやお店など、まちの人々が集まる、まちの人たちのためになるいろいろなイベントをしてきたそうです。また、トレーラーハウスの中には、屏風浦のおすすめの場所ややりたいイベントなどをポスターにまとめて貼ってあります。(一番左の写真) インタビューでは、「このトレーラーハウスを学生さん、子育て世代の方、シニアの方など、一人でもグループでも気軽に立ち寄れる場所にしていきたい」と答えてくれました。みなさんも、ぜひ足を運んでみてはどうですか。



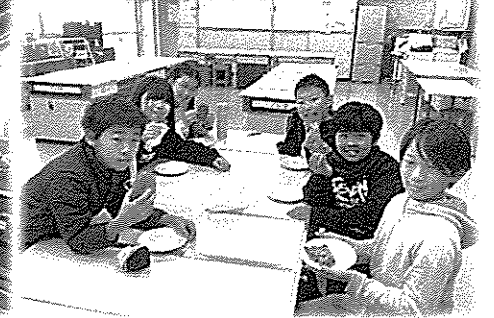
5年1組 学級通信

思い出しゅわしゅわスマイル通信 第156号

発行日：1月17日(金)

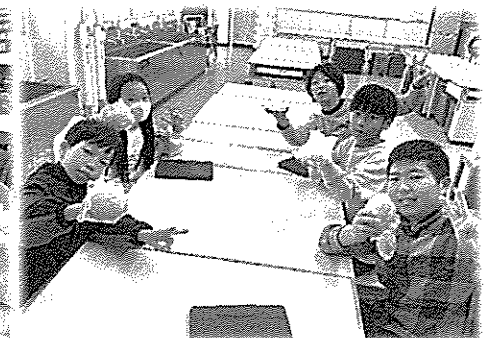


クラス総合 第4回取材活動報告①

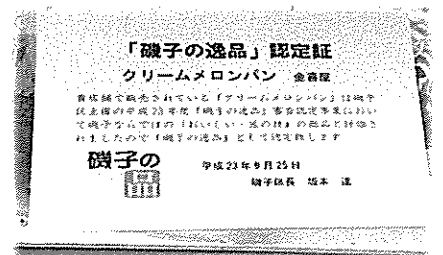


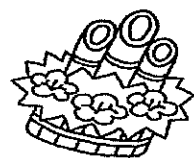
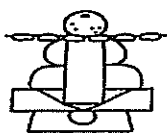
総合取材活動4回目(杉田地区)の取材の様子です。今回は、全部で5か所(肉の石川、カネキヤ、フーリスト花だより、影山輪業、杉田地区センター)に行ってきました。

この写真は、肉の石川グループの活動の様子です。肉の石川は、昭和64年からこの場所で営業をしている歴史あるお肉屋さんです。私も杉田地区に住んでいるので、お肉だけでなく総菜などもよく買っています。お店の人とても気さくな方ばかりなので、買い物ついでにちょっとおしゃべりといった感じで、地元の方から長く愛されているお店です。インタビューでは、この場所にお店を開いた理由は「駅が近かったから」、おすすめの品物は「鶏肉と揚げ物」、何種類の品物を取り扱っているかについては「10種類以上」という答えでした。以前の屏風浦地区の取材のときにも紹介した磯子区役所や発行しているパンフレット「磯子の逸品」に、このお店のメンチカツが選ばれていて、メンチカツが選ばれたときの気持ちは「お客さんが選んでくれたからうれしい」ということで、お客さんを一番に考えていることが伝わってくるお店でした。



続いてこちらの写真は、肉の石川の隣の隣の店、パン屋「カネキヤ」です。こちらも杉田駅の目の前にあるお店で、100年近い歴史があるそうです。第1回目の取材で訪れたサンドリエ磯子が森中にパンを提供しているのと同じように、カネキヤは浜中にパンを提供していて、それらのパンをあわせると、一日に300個以上売れている大人気店です。それ moreover、このカネキヤの「クリームメロンパン」は、杉田地区の「磯子の逸品」に選ばれていて、さらに横浜ウォーカーの取材で取り上げられたこともあるなど、杉田のパン屋と言えば「カネキヤ」と言ってもいい名店です。お店の中には、近くの保育園の子どもたちが書いたお手紙も飾られており、大人から子どもまで幅広く愛されているパン屋さんでした。

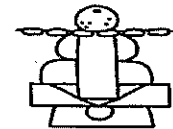
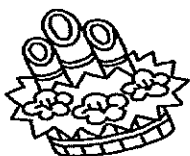




5年1組 学級通信

思い出しゅわしゅわスマイル通信 第157号

発行日：1月20日(月)



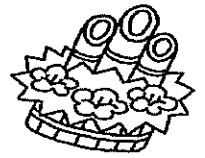
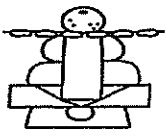
クラス総合 第4回取材活動報告②



前回に続き、杉田地区の取材の様子をお届けします。この写真のお店は、杉田の駅ビル「プララ杉田」の玄関口にお店を構えるお花屋さん「フローリスト花だより」です。この店も歴史が古く、プララができる前の昭和36年から営業しています。「花の販売や配達を通して、まちのみんなを笑顔にしたい」という気持ちでお仕事をしています。このお店の店長さんは、プララ杉田や商店街の集まりの代表もされているそうで、杉田のまちづくりについて強い思いをもたれている方です。「みんなに愛されるまちにしてい」「住みやすいまちにしてい」といったアイデアをたくさんもたれているので、また機会があれば、ぜひお話を聞いてみたいですね。屏風のまちづくりとはまた違った視点が見つかるかもしれませんね。



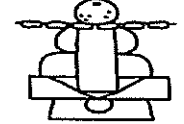
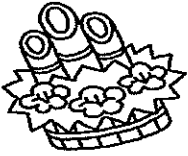
続いて、こちらの写真は「杉田地区センター」です。地区センターは、以前取材をした地域ケアプラザと同じ公共施設に分類されます。地区センターには、会議やサロンに使える集会室や工芸室（取材をした日には手芸の教室を開いていました）、小さな子どもの遊び場として使えるプレイルーム、卓球や体操ができるレクホール、その他にも図書コーナーや学習コーナーなど、いろいろな場所があることを知りました。館長の細川さんは、「地区センターは地域のいろいろな世代の人が集まる場所。安心して気軽に来てもらいたい」と話していました。いろいろなことに使える施設なので、みなさんも立ち寄ってみるといいですね。



5年1組 学級通信

思い出しゅわしゅわスマイル通信 第158号

発行日：1月21日(火)



クラス総合 第4回取材活動報告③



今回の取材、最後の場所は、杉田商店街から少し離れたところにある自転車屋さん「影山輪業」です。このお店がある場所は屏風浦小学校の学区なので、杉田地区というよりも屏風浦地区と言っていいでしょうね。クラスの人の中にも、自転車を購入したり、修理をしたりするためにお店を訪れたことがある人が何人もいるほど、この地域ではよく知られた自転車屋さんです。

影山輪業ができたのは、今から8年前。横須賀にもお店があるのですが、杉田・屏風浦地区には自転車屋さんいなかったの、お店を開いたとのことでした。マウンテンバイクやロードバイク、子ども用自転車、折りたたみ自転車など、いろいろなタイプの自転車を取り扱っていて、その中でも一番高価なものは店長の愛車で、なんと195万円もするそうです。その他にも、影山輪業が自転車のレースチームを結成していることや、お店に2匹のかわいいトイプードルがいることなど、いろいろなことを教えてもらいました。自転車愛にあふれたすてきな店長さんが営む自転車屋さん「影山輪業」でした。



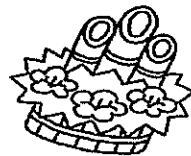
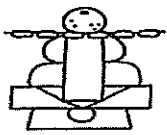
ここからは、第四回目の取材活動の振り返りを紹介します。(今回は地区センターと影山輪業です。)

◇地区センターは、小さい子どもから大人の人、高齢者まで、いろいろな人が楽しむことができ、すごくいいことだと思いました。こういった施設があることで、地域がもっと明るくなっていくと思います。今度、お家の人と一緒に行ってみたいと思います。

◇地区センターは、幅広い世代の人が、気軽に安心して自分の趣味やサークルができる場所だと分かり、まちにとって大切な施設なのだと思います。

◇影山輪業の店長さんになぜこの場所にしたのかと聞いてみると、「この辺には自転車屋が少なく、自転車が壊れたときに別の場所まで運ぶのは遠いから」と答えていました。自分のことではなく、相手のことを考えてお店を開いているのだと気付きました。

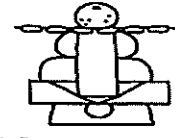
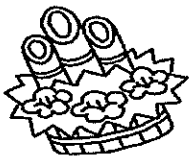
◇横須賀の影山輪業は、90年近くやっているということでした。このまちに自転車屋さんがなく、パンクしたら大変だからここに店を立てたということで、自分も大人になったら、まちに貢献できるようになりたいと思いました。



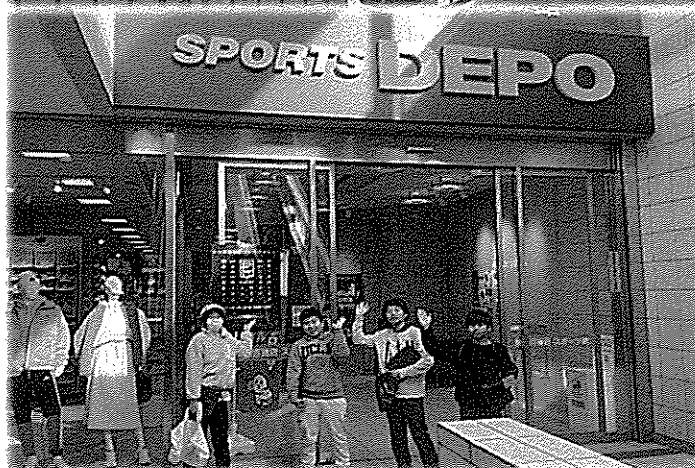
5年1組 学級通信

思い出しゅわしゅわスマイル通信 第165号

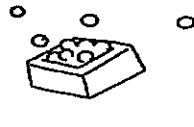
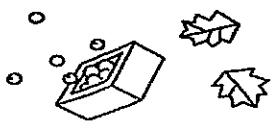
発行日:1月31日(金)



クラス総合 上大岡実地調査報告



横浜南部地域のビッグターミナル駅「上大岡」の実地調査の様子です。駅の規模、店や施設の数、交通量や人通りなど、屏風浦や杉田と比べて、大きなちがいがありました。どのようなちがいがあったのか、まちづくりの特色や自分たちのまちに生かせることはどんなことなのか、これからさらに学習を深めていきます。



5年1組 学級通信

思い出しゅわしゅわスマイル通信 第170号

発行日:2月7日(金)

クラス総合 上大岡実地調査振り返り③

前回の続きです。下のポスターは、上大岡の課題別学習で、各グループが提出したポスターからいくつか選んだものです。今回の学習で、みなさんの学び方がすばらしいと感じたところがあったので、紹介します。

①データをとって比べようとしている点

交通量や人通りを調べるにあたり、「なんとなく人が多い」とか「車がたくさん通って危なそう」とかではなく、「1分間に何台通る」「〇〇は～個ある」といったようにデータ収集をして比べることで、発表の説得力が高まりました。

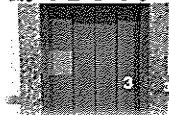
②自分たちの感覚だけではなく、まちに住む人全体のことを考えた視点(まちづくりの視点)をもっていること

「このまちを訪れる人、住んでいる人など、たくさんの方のことを考えた災害対策をしている」「お年寄りや体が不自由な人、子どもたち、長時間の移動が難しい人でも楽しめる工夫」といったように、幅広い世代や様々な状況を想定したまちづくりの工夫を見つけることができていました。

たばこのポイ捨てから、まちの治安について考える発言まで出てきた点も驚きでした。今回の上大岡の学習では、みなさんの学び方が、私が思っていたはるかに上のレベルに達していたことに、とてもうれしく感じました。総合の学習を通して、まち全体を見る目が育ってきていると感じた瞬間でした。

上大岡移動

京急百貨店ではエスカレーターやエレベーター橋がありましたエレベーターでは屋上以外10階まで行けて楽に移動できるように工夫されていました。エレベーターには開くボタンや閉じるボタンもあってお年寄りでも移動できそうでした。エスカレーターには車椅子用のボタンがあり不自由な人でも楽に移動できていました。このように移動する方法は色々ありお年寄り不自由な人でも楽に移動できます。



上大岡に行ってきました！
屏風浦駅から1駅で着きます。

上大岡の駅前であつたら4分間で100人でした。上大岡につながらる橋が2つあり、それがあつて行き来しやすく、屋根がついているので、雨が降っていても濡れる心配がないので便利です。上大岡は人がとても多いので、屏風浦と比べて道も大きかったです。



上大岡の建物～災害への対策

上大岡は開発が進んでいますが災害への備えもしっかりしています。一つ目はエレベーターです。1枚目の写真には緊急装備品といういわゆるエレベーターの災害バックです。災害に必要な物が全て揃っています。2枚目の写真は消防用水の写真です。それぞれの三つの放出口がありますがそれぞれ大きく違います。一つは消防隊専用、他にもスプリンクラー専用などあります。最後はこの案内板です。この案内板のとなりにはそれぞれ消火器、火気厳禁などの看板があります。気がついたことは上大岡には屏風浦の街と比べて災害対策にもしっかり備えていることがわかりました。



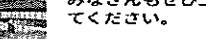
私たちは、上大岡の街並みを調べました。

屏風浦より建物がたくさんあって人通りも多くて屏風浦より栄えている事がわかりました。

屏風浦は、あまりお店がありませんが、上大岡は、駅の近くにいろいろなお店がありました。

屏風浦にも、駅前にもっとお店や施設を増やしたら屏風浦にくる人がもっと増えるのではないかと思います。

最後に、この写真を見てください。私たちが集合場所に戻ろうとしていたときに、火をつけたまま、タバコを捨てていた人がいたので、治安が少し悪いと思いました。



上大岡の交通について調べました！

マック・デポあたりの横断歩道で、車の量や、バスの量を調べました。調べた結果は、車が1分間で約17台、バスは1分間で約5台でした。信号の数を調べた所、約19個でした。

【気がついた事】
道路の端に車を止めるスペースがある事と、歩道橋が2つある事と、大きいバスターミナルがある事です。

【考えたこと】
横断歩道を渡ることが難しい人にとって、歩道橋はとても大切だと考えました。バスターミナルが大きいと、たくさんの方がバスに乗れることができると便利だと考えました。みなさんぜひ上大岡を利用してみてください。



上大岡 (グルメ)

上大岡のグルメを見てきました！
上大岡には、屏風浦と比べて沢山のお店がありました。その中でも飲食店の割合が大きく、いろんな種類がありました。

その中でも屏風浦にはないデパ地下など、多様な店がありました。ラーメン屋、飲食店、デパートなど、沢山あり、生活するのにいろいろな物が揃っていました。他のビルでも色々な飲食店や、カラオケなど、沢山の物があつた建物の屋上から見ても沢山のお店や住宅街がありました。



グルメには関係ないけど、他にも上大岡に特徴がありました。ボーリング場や、パチンコセンター、ゲームセンターなど様々なものがありました。

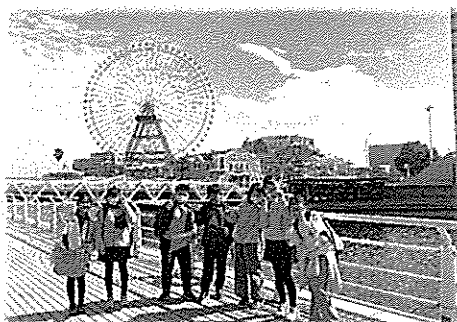


5年1組 学級通信

思い出しゅわしゅわスマイル通信 第188号

発行日: 3月7日(金)

みなとみらい校外学習の様子



今年度のクラス総合は、景観(景色や街並み)とまちづくりをテーマに学習を進めてきました。これまで、屏風浦、杉田、上大岡と、様々なまちの様子、お店や施設を取材し、その特色や違いについてまとめてきました。そんなクラス総合の集大成として、今回の校外学習では、横浜市が誇る一大観光地であるみなとみらい地区に出かけました。2021年に運航を開始した都市型ロープウェイ「エアキャビン」に乗車したり、グループごとに課題を設定して調査をしたりしました。活動後、お話を聞かせていただいたエアキャビン所長の船田さんから、「小学生がエアキャビンに興味をもってくれたり、実際に乗りに来てくれたりしてうれしい。みなとみらいの観光がもっと盛り上がるように、一緒にがんばっていきましょう!!」とメールをいただきました。

残りの期間は活動のまとめに取り組むとともに、今年の総合でお世話になった方々への報告とお礼の仕方を考えます。あわせて、今年の取組を、ぜひお家の人や身近な人にも伝えて、まちのよさをアピールしていきましょう。

② 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

- ・ 地域の名所、景観にすぐれたところなど、区役所発刊のパンフレット（磯子の逸品）等でもおすすとされている箇所については、最初におさえることとした。その上で、子どもたちの目線で取材、紹介したいところに注目できるように考えた。
- ・ デジタル機器（タブレット等）の使用や情報モラル指導について徹底した。まち全体を取材対象とするにあたり、不特定多数の方の了解を得ないといけないことも考えられたので、事前の取材申込みの段階で確認がとれるように、児童にも指導を徹底した。
- ・ 取材、編集活動は、年間を通して同じ流れで行っていくようにした。PDCA サイクルで行っていくことにより、活動を経ることでよりよい成果物や、幅広い視点で取材活動を行えるようになった。
- ・ 本活動を行っていく中で、パンフレットやWEBページだけでなく、実際に何かイベントを行うことはできないかという発想が出せるところをめざした。その際には、対象者（学校の同学年・下学年、一般の観光客、地元の人々等）、対象のニーズ（興味をもってくれそうなものはなにか、その場所の魅力を満喫できる活動は何か等）、地域への貢献（その場所の問題解決のためになにか支援できることはないか）など、企画における具体的にポイントを考えられるようにした。

(2) 実施にあたり苦勞した点

- ・ 同じ授業時間に複数の取材を同時進行で行うので児童管理が難しく、取材内容やその質に差が見られた。
- ・ 飲食店は営業時間やお客さんの都合で取材予約がとれなかったり、直前で断られてしまったりすることもあった。
- ・ 公園の取材では管理者が不在のことが多く、利用者もほとんどいないこともあったので、インタビュー活動を断念することとなった。
- ・ 取材予約等の電話連絡、取材先や公共施設での見学マナー等、児童が未経験のことやこれまでの指導が十分でないこともあり、ご指摘をいただくこともあった。

(3) 児童の反応（実際の児童の振り返りから抜粋）

- ・ 「屏風浦地域ケアプラザ」「杉田地区センター」を取材した。活動を進める中で、自分たちがまちのことを意外と知らなかったことに気付いた。住民の安心・安全のために活動している施設について、情報発信がもっと必要だと感じた。
- ・ 「トリプルエフ」「サンドリエ磯子」を取材した。活動を通して、普段あまり訪れたことのない場所やお店にも取材ができ、まちの新たな一面を知ることができた。
- ・ 「屏風浦つながるステーションB」を取材した。屏風浦駅前を盛り上げるために、たくさんの方々が参加していることを知った。地域の多くの方と関わることができ、一緒に活動をつくりあげることができてうれしかった。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

- ・担当教諭である私は、本校に3年間勤務しているが、まちのことでまだまだ知らないことがあった。また、普段は何気なく通り過ぎるだけの場所に、いろいろと魅力的なお店や施設があることが分かり、またその場所が多くの人々の思いや願いによって形作られていることにも気付いた。
- ・児童の取材活動に、屏小サポーターというボランティアにも引率等に関わってもらった。この取組を校内でも発信したことにより、地域の方とともに学習を創りあげる手法やそのよさを知るよい経験となった。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

- ・本活動は、地域の多くの方（お店や施設、事業所）に賛同をいただき、お褒めの言葉もいただいた。活動を続けてもらいたいとの声もあるので、私自身が次年度のクラスで行うか、もしくは本校職員のだれかに引き継ぐなどしていきたいと考えている。
- ・情報モラルや公共マナーにおいては、息の長い指導が必要であると感じた。総合的な学習の時間だけでなく、道徳科や特別活動等を通じて、指導に取り組みたい。